

【様式1-1】

栗山町長寿命化修繕計画

平成24年6月

(平成28年12月 様式1-2改訂)

栗山町 建設水道課

1. 背景・目的

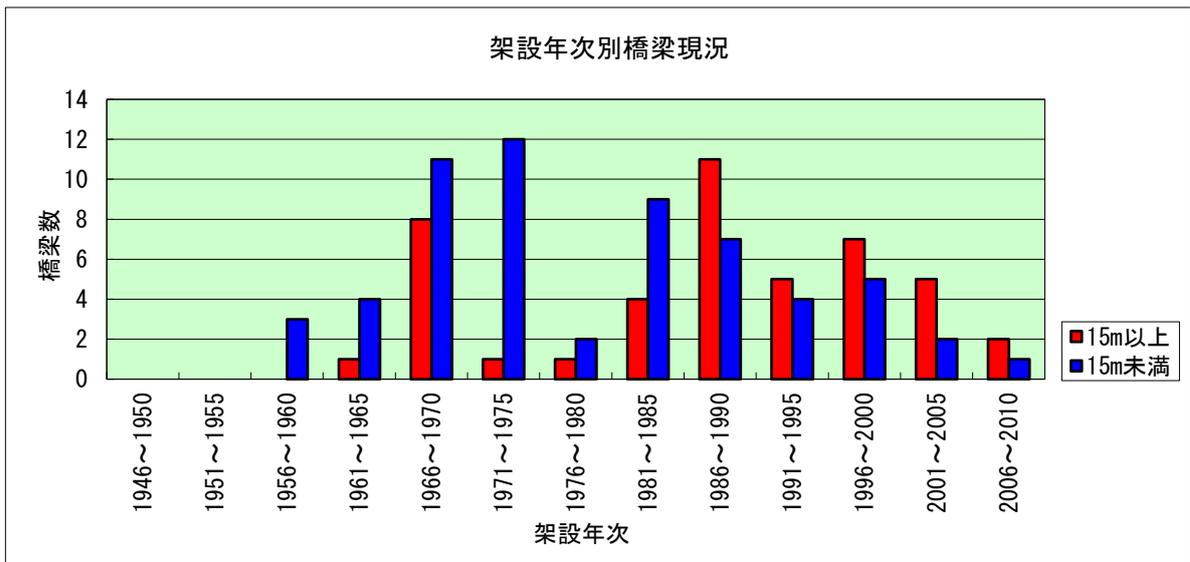
栗山町が管理する道路橋梁は、105橋（平成22年4月末現在）あり、橋長15m以上の橋梁数は45橋、橋長15m未満の橋梁数は60橋を管理しています。

このうち建設後50年を経過した「高齢化橋梁」は5橋あり、全体の5.0%を示しています。10年後にはこの割合が31.0%、20年後には50.0%と増加する見込みであり、急速な橋梁の高齢化が進み、今後補修補強を行うための費用が大幅に必要となることが予想されます。

また、厳しい財政事情が続くなかで、合理的、効率的な手法による公共資産の維持管理が強く求められています。

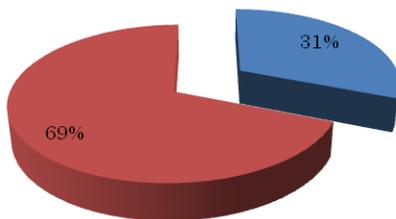
このような背景から、高齢化した橋梁に対して、適切な点検と評価に基づく補修補強を実施することにより、橋梁の長寿命化を図り、道路橋梁の安全・安心を確保するとともに、今後増加が見込まれる橋梁の修繕や架替え経費について可能な限りコストを縮減するために、栗山町としては橋梁長寿命化修繕計画に取り組んでおります。

表-1.架設年次別橋梁現況一覧表



10年後の橋梁数

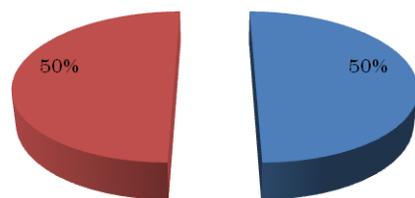
■ 50年以上 ■ 50年未満



2022年時に架設後50年を越える橋梁数

20年後の橋梁数

■ 50年以上 ■ 50年未満



2032年時に架設後50年を越える橋梁数

2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

栗山町が管理する橋105橋の内、東山4号橋（平成24年度に路線切り替えに伴う廃橋を予定）を除く全ての橋梁104橋を対象としています。

3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1) 健全度の把握の基本的な方針

栗山町で管理する道路橋梁の健全度把握のための橋梁点検については、平成20年度から平成22年度の3箇年において全ての道路橋梁104橋を実施しております。

点検要領は、「道路橋に関する基礎データ収集要領（案）国土交通省国土技術政策総合研究所（平成19年5月）」を基に、委託による現橋橋梁点検調査を行い、「北海道版市町村橋梁点検データ入力システム」により成果を作成し、健全度の把握を行っております。

また、橋梁の損傷の早期発見、早期治療を目指すために、定期的な橋梁点検（1回／5年毎程度）を実施し橋梁の損傷を早期に把握し、予防保全的な補修補強計画を計画的に実施し、将来的な維持管理費の縮減・平準化を図ります。

2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

橋梁を良好な状態に保つため、日常的な維持管理として、パトロール、清掃などの実施を徹底する。

4. 対象橋梁の長寿命化および修繕・架替えに係わる費用の縮減に関する基本的な方針

健全度の把握および日常的な維持管理に関する基本的な方針に基づき、予防的な保全を行うことで、修繕・架替えに係わる事業費の大規模化および高コスト化を回避し、ライフサイクルコスト（LCC）の低減を図っていきます。

詳細点検結果に基づく橋梁の健全度把握及び損傷状況に応じて橋梁長寿命化修繕計画を見直す。

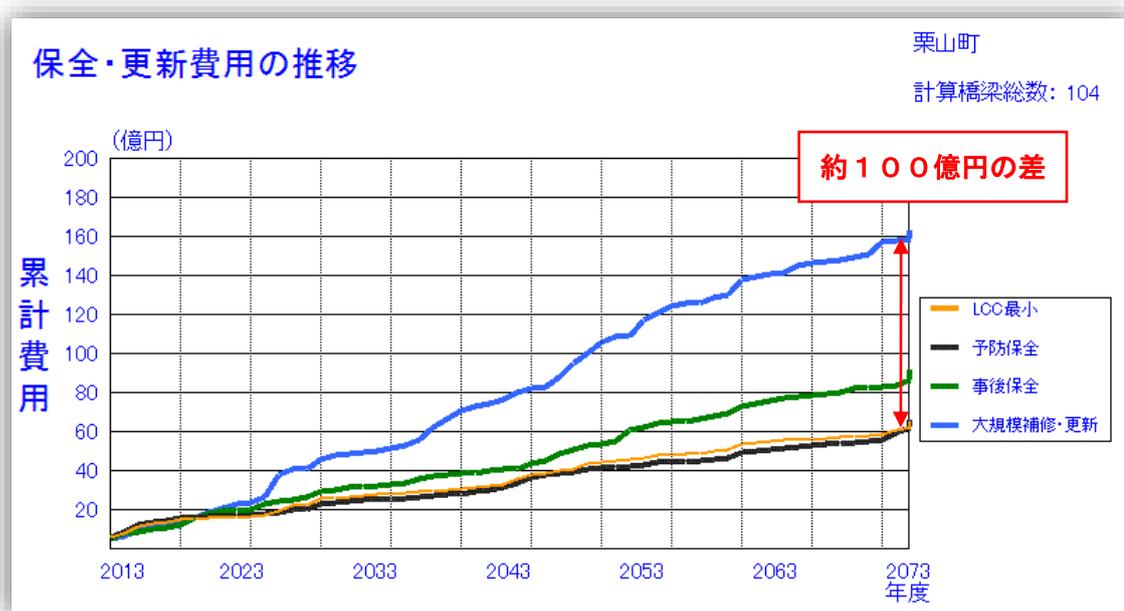
これらを踏まえ、現時点では長寿命化修繕計画の策定に当たっては、「公共土木施設長寿命化検討委員会」から報告を受けた健全度評価手法を「市町村橋梁管理システム」による橋梁マネジメントシステム（Web版）より得られた出力データを基礎資料として、現状に合った解析や「橋梁点検対策優先順位の考え方」などを参考に優先順位付けを行います。

5. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替え時期

様式1-2による

6. 長寿命化修繕計画による効果

- ① 予防的な修繕を実施することによる長寿命化により、ライフサイクルコスト（LCC）の縮減を図ります。
- ② 長寿命化修繕計画を策定する104橋について、今後60年間の事業費を比較すると、従来の事後保全型が160億円に対し、長寿命化修繕計画の実施による予防保全型が60億円となり、コスト縮減効果は100億円（1.7億円/年）となります。
- ③ 損傷に起因する通行制限等が減少し、道路の安全性・信頼性が確保されます。



7. 計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者等の専門知識を有するもの

1) 計画策定担当部署

栗山町 建設水道課 TEL 0123-72-1111

2) 意見を聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

北海学園大学 工学部土木工学科教授；杉本 博之 工学博士